

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名

【 熊本県 】 南関町立南関中学校

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	生徒 180 名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ( )</p> <p>② 行事名 ( )</p> <p>③ その他 ( )</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ( )</p> <p>② その他 ( )</p>
4 目標 (ねらい)	2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高めるとともに、自らの目標に向かうオリンピックの姿勢を学ぶ。
5 取組内容	<p>オリンピックによる講演会及び実技指導</p> <p>平成30年2月27日(火)に本校にて、成迫健児氏(オリ陸上：400メートルハードル)を迎え、講演会及び実技指導を行った。</p> <p>(1) 講演</p> <p>タイトル：「競技を通して伝えたいこと」</p> <p>はじめに、成迫氏の専門種目である400メートルハードルという競技について、北京オリンピックの選考会のビデオをみながら説明をしていただいた。どんな力や技術が必要か、タイムはどの程度か、また、走っているときに気をつけなければならないこと等を教えてくださった。</p> <p>次に、オリンピック出場までの軌跡について、お話していただいた。大分県出身の成迫氏は、小学校時代には別のスポーツに励んでいたが、中学校に入り、陸上をはじめたという。記録は順調に伸び、高校2年時に世界ユース大会3位という成績を収めることができたが、その後は記録が伸びず、スランプに陥ったとのことであった。アメリカ人コーチにみてもらうことや、アテネオリンピックに挑戦しようという目標が立てたことが環境を変えるきっかけになり、その結果、競技に集中できるようになった。大変なこともあるが、トップ選手としての自覚や誇りを感じるようになり、また、世界大会への出場を通して国際交流という経験もできたと話してくださった。</p>

	<p>北京オリンピックでの出来事やオリンピックに対する思いについては、ボルトが談笑しながら食事をしている姿が印象的であったことや、オリンピック・パラリンピックの影響力は他のどの国際大会とも比べ物にならないほど大きいこと、また、東京大会も含め、オリンピック・パラリンピックが国全体で盛り上がるのが大切ということをお話してくださった。</p> <p>最後に、東京大会への出場という目標・夢の達成に向け、努力したいという強いお言葉をいただいた。</p> <p>(2) 実技指導 実技指導では、校庭で実際にハードルを使いながら指導していただいた。</p>
6 主な成果	<p>講演内容からみる成果 オリンピックに出場するには、想像以上の努力が必要だが、オリンピックはその努力をしてまでも目指す価値がある大会であることを理解した。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>講演の後、グラウンドでのパフォーマンスをしてもらうことでオリンピックのすごさを体験することができた。</p>
8主な課題等	<p>次年度に向けた継続的な事業の実施。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>実施予定</p>